

港北区防災・区民生活マップ

令和6年12月発行

大地震はいつ起こるかわかりません。日頃の備えを改めて確認してみましょう。



自宅の安全対策

過去の大震災で亡くなった方の大部分が家具などの倒壊による圧死でした。地震から身を守るために、また、地震発生後に自宅で過ごすように、家具の固定や配置を工夫し、家の中を安全にしておくことが重要です。被害を軽減するためにも日頃から点検し、安全対策をしましょう。



1 家具
金具やつっぱり棒など家具転倒防止器具を取り付けます。

2 扉・戸棚
扉が開いて食器等が飛び出さないよう、留め金具を取り付けます。

3 テレビ等の固定
耐震マットで固定する。

4 窓ガラス
ガラスに飛散防止フィルムを貼る。

5 プレーカー
避難器具の転倒などによる火災や停電からの復旧時における通電火災(破損した電気コードのショートによる出火など)を防ぐため、感震ブレーカー(大きな揺れを感知すると自動的に電気を遮断する)を設置する。

- 火災が発生してしまったら**
初期消火は出火後2〜3分が大事です。これ以上火災が続くと、火が天井にまわり手がつけられなくなります。ただし、大きな揺れの最中に無理に火を消そうとすると危険です。まずは身の安全を図りましょう。
炎が天井まで届くくらいになったら ➡ **初期消火をやめ、すばやく避難**
家の外に避難したら ➡ **周囲に大声で火災の発生を知らせ、119番通報を**
火災の規模が大きい場合 ➡ **広域避難場所等へ避難**

避難の流れ

地震発生 その場にあった身の安全の確保

自宅にいますとき

- クッションや布団、枕など近くにあるものを頭を守る。
- 丈夫な机の下に身を隠す。
- ガラスの破片などでケガをしないように注意する。
- あわてて外に飛び出さず、ドアや窓を開けて出口を確保する。

外にいますとき

- 自動販売機やブロック塀、電柱など倒れやすいものから離れる。
- カバンなどで頭を守り、看板や外壁など落下物の危険性のある建物から離れる。
- 揺れ下がっている電線やガス漏れしている場所には絶対に近づかない。
- 道路が液状化や地割れを起こしている場所には近づかない。

エレベーターに乗っているとき

- 全ての階のボタンを押して、停止した階で降りる。
- 閉じ込められたとき、非常ボタンやインターホンを連絡を取り救助を待つ。
- 余震の可能性もあるため、避難にエレベーターは使用しない。

車を運転中のとき

- 急ブレーキをかけず、ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落として道路わきに停車する。
- 揺れがおさまるまで、車内のラジオなどで情報収集する。
- 車を離れるときは、緊急で移動させることもあるため、キーを付けたままにする。

すばやく火の始末

- 火を使っているときは、揺れがおさまってから、あわてずに火の始末をしましょう。
- 火が出たら大声を出して周囲に知らせ協力を促して初期消火。

乳幼児を連れて避難の基本

●歩ける子どもは抱っこで避難

避難するときは、歩ける子どもであっても、抱っこをして子どものけがを防ぎ、はぐれないようにします。靴も履かせておくようにし、ヘルメットや帽子で頭を守るようにしましょう。

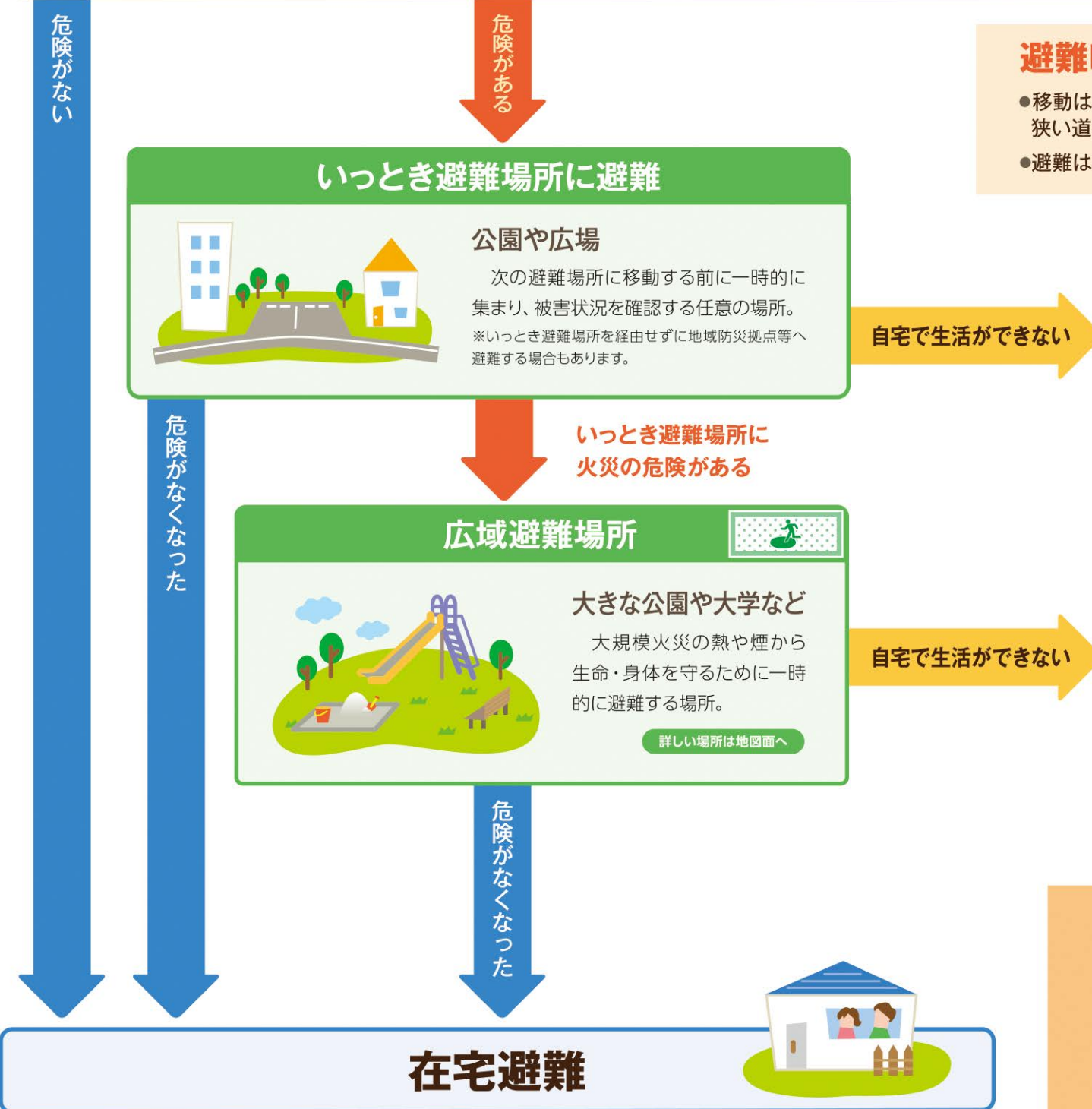
●ベビーカーで避難しない

停電でエレベーターが動かない、建物やブロック塀の倒壊で道がふさがればベビーカーが通行できないなどのことが考えられます。抱っこ組での避難を想定しておきましょう。

●はぐれた時も想定して準備しておく

子どもと離れないようにするのが原則です。万が一離れてしまった時のことも考え、探すときに家族写真を持っておくようにする。子どもを持たせる避難バッグに連絡先を書いたものをポケットに入れておく(※防災バッグから見えないようにしておく)などの備えをしておきましょう。

周辺の状態を確認 自宅や隣家の倒壊・火災等の危険がないか



避難時の注意

- 移動は崩ざわ、狭い道は避ける
- 避難は徒歩で、自動車は厳禁

地域防災拠点(避難所)

地域防災拠点の主な役割

- 避難生活を送る場所
- 在宅避難者が、水・食料、生活用品を確保できる場所
- 救助・救出活動の拠点となる場所
- 安全確認や被害状況の情報収集・発信する場所

〈地域防災拠点の運営〉
地域の皆さんを中心に、学校・行政・避難者が協力して行います。

家屋の倒壊などにより自宅で生活できない人が一定期間避難生活を送る場所です。港北区では、市立の小・中学校29か所を指定し、横浜市内で震度5強以上の地震を観測したときに、全ての地域防災拠点を開設します。

地域防災拠点では、最低限の食料・水の備蓄、救助活動用資材の整備などがされており、これらを活用し、徐々に体制を整えていきます。

福祉避難所

地域防災拠点での避難生活が困難な方の避難所

福祉施設など
区の保健師などが、心身の状態や受入施設の状況等を勘案し、福祉避難所への避難を判断します。直接避難ができる場所ではありません。

備蓄品や非常持出品

地震発生後は、食料や日用品を手に入れることが難しくなります。家族構成を考えて、必要な備蓄をしておきましょう。また、すぐ取り出せるように非常持出品品を準備しておきましょう。

備蓄する量は **1週間分、最低3日分**です。

必要量をリュック等に入れて、非常時にはすぐに持ち出せるようにしておきましょう。

項目	品名	チェック欄	項目	品名	チェック欄	項目	品名	チェック欄	
水	水缶・ペットボトル		携帯ラジオ (予備電池含む)		現金(小銭も)		貴重品		
	簡易食料(ゼリー飲料等)			懐中電灯 (予備電池含む)				現金通帳、有価証券、印鑑	
	インスタント・レトルト食品			モバイルバッテリー (携帯充電器)				健康保険証の写し	
食料品	缶詰 (缶切りを壊りなくとも開くもの)		モバイルバッテリー (携帯充電器)		傷薬、目薬、消毒薬		医薬品等		
	フリーズドライ食品		使い捨てカイロ		風邪薬、胃薬				
食器・調理器具	皿・コップ (紙・プラスチック)		マッチ、ライター		常備薬、おくすり手帳		小物類		
	割りばし スプーン・フォーク		ポリタンク		トイレバック(携帯トイレ)				
	缶切り、ナイフ		スリッパ		トイレトイレットペーパー				
	鍋、カセットコンロ		軍手		洗面用具、タオル				
衣類等	上着、下着類		ロープ、ガムテープ		石鹸、シャンプー		衛生用品		
	帽子、ヘルメット		ティッシュ ウェットティッシュ マスク		ティッシュ ウェットティッシュ マスク				
	毛布		ゴミ袋		生理用品				
	雨具、傘		ビニール袋		ガーゼ・包帯 ばんそうこう・三角巾		医療用品等		
			ラップ、アルミホイル		アルコール消毒液				
			筆記用具、メモ帳		体温計				

乳幼児がいるなどご家庭の状況に合った備蓄品や非常持出品を用意しましょう。

在宅避難のススメ

大地震が起きたら、地域防災拠点に避難するものだと思いませんか? 地域防災拠点の収容人数や備蓄数量には限りがあり、プライバシーの確保や集団生活によるストレスを感じる等の課題もあります。自宅が安全に生活を送れる状態であれば、在宅避難をしましょう!

●在宅避難に向けた日頃の対策

自宅で生活するために、家の対策や必要な食料品・生活必需品の備蓄をするなど、日頃から対策を進めておきましょう。

家の対策 ▶ **自宅の安全対策** **共同住宅での備え** をチェック

備蓄 ▶ **備蓄品や非常持出品** をチェック

在宅避難中に物資などが必要になったら

地域防災拠点では水や食料などの物資や開設中の医療機関などの情報を提供しています。また、断水したときには、災害用地下給水タンク、緊急給水栓及び耐震給水栓がある場所で飲料水を得ることができます。

トイレ対策

地震が起きると断水や下水管の損傷等で、トイレが使えなくなることがあります。水が流れても下水管が損傷していれば、逆流することもあります。そのため、地震発生後は、トイレバック(携帯トイレ)を使いましょう!

トイレが使えなくなったらどう対処しますか?
~トイレバックの重要性~

東日本大震災のとき
水洗トイレが使用できなくて、トイレは日頃からトイレバックを備蓄しておきよかったです。

東日本大震災時
9時間以内にトイレに行きたくなった人
78%
(日本トイレ研究所)

トイレバック備蓄の目安
家族の人数×最低3日分×一日当たりのトイレ回数想定
例えば4人家族で一日5回 4人×3日×5回=60セット

共同住宅での備え

マンションでの揺れについて

●高層階では、大きくゆっくりに揺れにより、家具類が転倒・落下・移動する可能性が高くなるため、特に家具の固定などの対策が必要です。

備蓄について

●各家庭での備蓄のほか、共同住宅全体でも救急用品や救助用資機材などを備蓄しましょう。

●エレベーター内の備蓄も検討しましょう。

管理組合や住人同士の協力

●防災設備の点検や防災訓練のお知らせなど、管理組合からの連絡に目を通しましょう。

●フロアの世帯数や年齢層などを把握し、管理組合と協力をし、災害時の行動のマニュアルなどを作成しましょう。

避難路について

●災害時は、エレベーターの使用や玄関からの出入りができなくなる可能性があるため、非常階段や非常扉の場所、ベランダの避難ハッチ(非常脱出口)や避難ハッチの使い方を確認しましょう。

●避難器具の周りに物を置かないようにしましょう。

帰宅困難者になってしまったら?

大地震が起きると、公共交通機関がしばらく運休し、帰宅が困難になります。駅前や繁華街に人が滞留し、大混雑になる可能性も考えられます。むやみに移動を開始せずに正確な情報収集を心掛け、職場や施設などにとまるとともに、学校・行政・避難者が協力して行います。

移動中など屋外で被災し帰宅困難となった方を支援するため、トイレバックや水などの備蓄品や、公共交通機関の運行情報を提供する帰宅困難者一時滞在施設を指定しています。利用の際は一時滞在施設NAVIにて、施設の開設状況を確認してください。

●慌てないための備えが必要! ~職場での備え~

- 無理に帰宅しなくても済むように、職場に泊まれる準備をしておきましょう。
- 帰宅できなくなる場合に備えて、職場に帰宅グッズを用意しておきましょう。

帰宅グッズの例

- 携帯ラジオ □ 地図 □ 簡易食料(お菓子など) □ 飲料水
- モバイルバッテリー(携帯充電器) □ 懐中電灯 □ 雨具
- 動きやすい服装 □ スニーカー □ タオル

備えましょう! ペットの災害対策

災害時に大切なペットと一緒に安全に避難するため、今できる備えをしましょう。飼い主やペットの情報を記載できるペット防災手帳を区役所環境衛生係(3階39番)で配布しています。

●ペットがいる場所の安全確認

屋内ならばケージ・水槽等の転倒防止、屋外ならばブロック塀・欄の倒壊防止の対策をしましょう。

●在宅避難の準備

自宅に被害がなく、二次災害の恐れもない場合、**在宅避難**をお勧めします。住み慣れた自宅の方が、人もペットもストレスの少ない避難生活を送れます。

●ペットのための備蓄品準備

食料・生活用品の備蓄に加え、薬や療法食が必要な場合は命に関わるので、必ず準備しましょう。

- 7日分(最低5日分)以上の食料、水、常備薬 □ 食器 □ 予備の首輪やリード
- キャリーバッグやケージ □ トイレ用品(ペットシートやトイレ砂)
- タオル、新聞紙 □ 油性ペン、カッター、ガムテープ等

●預け先の確保

同行避難が困難な場合を想定し、事前にペットを預かってもらえる親戚や友人、ペットホテル等を探しておきましょう。

防災訓練に参加しよう

いざという時に、すぐに正しい行動がとれるように、地域防災拠点や自治会町内会等で行われている防災訓練に積極的に参加しましょう。

防災訓練に参加するメリット

- 災害時の対応方法を習得できる。
- 地域の人との協力関係を築ける。
- 災害時の課題が見えてくる。

地域防災拠点での訓練例

- 避難者の受け入れ・避難者シスの集計訓練
- 備蓄資材の確認・操作訓練
- 飲料水の役割訓練
- 生活場所の役割訓練
- 炊き出し訓練
- 夜間訓練
- など

自治会町内会での訓練例

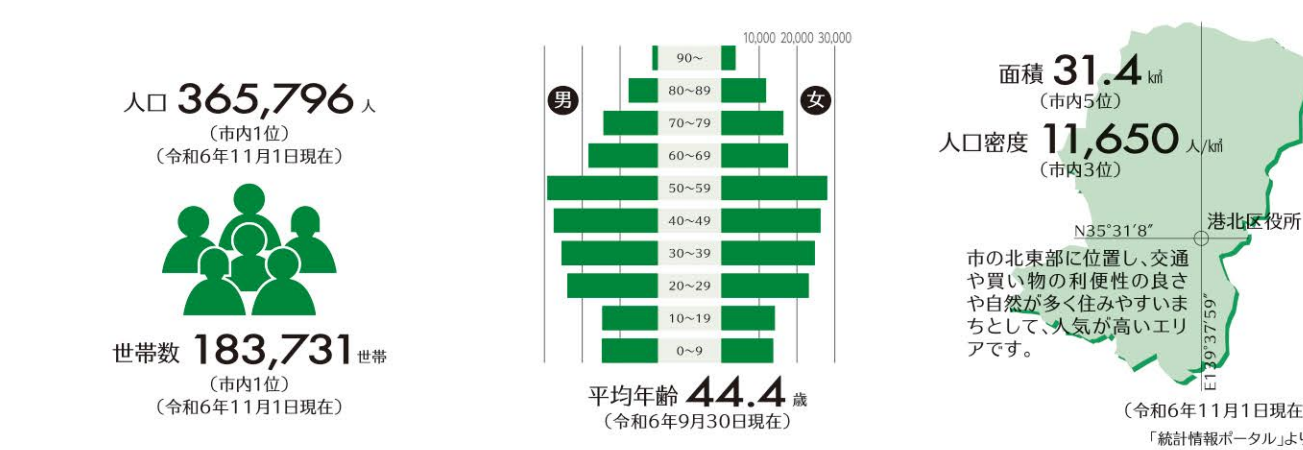
- 要援護者の安否確認
- 地域防災拠点への避難方法の確認
- 短期間の避難を想定した訓練
- 初期消火訓練
- など

港北区のあゆみ

- 昭和14年 港北区誕生(現在の港北区、緑区、青葉区、都筑区をあわせた区域で、人口は約5万人)
- 昭和39年 東海道新幹線の開通に伴い新横浜駅が開業
- 昭和44年 緑区(現在の緑区、青葉区及び都筑区の一部)を分區
- 昭和53年 区新総合庁舎が現在地に開設
- 昭和60年 横浜一新横浜間で市営地下鉄の開通
- 平成元年 横浜アリーナがオープン
- 平成5年 新横浜一あざみ野間で市営地下鉄の開通
- 平成6年 一部を都筑区に編入、現在の港北区となる
- 平成10年 横浜国際総合競技場(日産スタジアム)がオープン
- 平成15年 鶴見川多目的治水地(新横浜公園)運用開始
- 平成20年 市営地下鉄グリーンラインの開業
- 令和5年 相鉄・東急直通線の開通、新綱島駅開業
- 令和6年 港北区市民文化センター(ミスキーホール)がオープン



港北区の統計



港北区のシンボルマーク



港北区のキャラクター



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

GREEN×EXPO 2027は、私たちの生活に大きな影響をもたらす気候変動に備えた「緑共」をテーマとする、環境と共生し市民と共に創る日本でも初めての国際博覧会です。自然・人・社会が共に持続するために、地球の限界や膨大な社会を具現化し、人々の環境への意識や行動は2027年の横浜から変わった!と言われるよう準備を進めています。

開催期間 **2027年3月19日(金)~9月26日(日)**

開催地 **神奈川県横浜市・旧上瀬谷通信施設**

テーマ **幸せを創る明日の風景
-Scenery of the Future for Happiness-**

主催者 **2027年国際園芸博覧会協会**